

平成23年度 第3回CCC政治学グループ運営委員会 議事概要

I. 日時 : 平成23年12月21日(水) 19:00～

II. 場所 : 私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 出席者: 萩原委員 川島委員 名取委員(skype)

(事務局) 井端事務局長 森下主幹 松本職員

IV. 議事概要

1. 検討内容

前回の委員会では、当初3つあった教育改善モデルを1つにまとめることとし、「2.2 授業の仕組み」まで改訂を検討した。本日は前回に引き続き、委員が作成した修正(案)をもとに「2.3 ICTを用いた授業シナリオ」から検討を行った。

(1) 「2.3 ICTを用いた授業シナリオ」

- ・受動的段階、能動的段階、フィードバック段階の3つのステップを踏む。
- ・受動的段階には「基本知識の共有」が必要。
- ・能動的段階には「問題発見」が必要。
- ・フィードバック段階にあたる、発表については「2.4 ICTを用いた授業の内容・方法」で具体的に記す方がよいのではないかと、意見があり、最終的に下記のとおりまとめた。

2.3 授業に ICT を活用したシナリオ

- ① 知識の正確な習得(受動的段階)のため講義が中心となるがシラバス、授業ノート、参考文献リスト、テキスト等はWeb上で共有できるようにしておく。
- ② 映像資料やネットを活用して各自が自己との関連付けの中で問題を発見し、関心を共有するグループを構成し、討論を通じて問題解決を図る。
- ③ 教員および他の学生と相互の解決案を吟味し合い、誤りや不足点を修正しつつ新たな問題発見につなげていく。

(2) 「2.4 ICTを用いた学習内容・方法」

- ・グループを形成させるだけでなく、自分の位置づけについて気付かせる。
 - ・グループで考えた仮説を検証し、報告させる。
 - ・学習成果の振り返りを行うために、相互評価や外部評価を行う。
- などと、意見があり、最終的に下記のとおりまとめた。

2.4 授業に ICT を活用した学習内容・方法

- ① 現代社会において何が問題なのか、それ自体を学生の議論の対象とし、授業で取り上げるべき問題を議論させる。そのため、ニュースやドキュメンタリー等の映像資料を見せる。

- ② 学生は、自分の関心、問題意識を学習管理システム上に掲載し、参加者の関心に
応じてグループを形成させる。その際に個々のグループのテーマ相互の関連性と全
体の中での位置づけについて気付かせるのが上級学年、大学院生のファシリテー
ターや教員の役割である。
- ③ データベースや統計ソフトを利用し、グループで作成した仮説を検証させ、対面
やネット上で中間報告会を開き、成果の共有を行う。
- ④ 学習成果の振り返りを行うために対面やネット上で相互評価や外部評価を行い、
意見交流を踏まえて新たな問題発見を行わせる。その上で大学間で教育クラウドを
設置し、メディアと連携したインターカレッジな競い合いの場を設けていく。

(3) 「2.5 ICTを用いて期待される効果」

- ・単年度にとどまらない振り返りが可能であることを追記した。
最終的に下記のとおりまとめた。

2.5 授業に ICT を活用して期待される効果

- ① グループ学習と学習管理システムや掲示板等により、受け身の学びから協働して
自ら学ぶ姿勢を身に付けさせることができる。
- ② 記録性と閲覧性が拡大することによって、単年度の学習成果に留まらない学習の
振り返りが可能になり、先行グループの成果が後続グループの教材となる。
- ③ 課題の探求を通して、自らがその一員である政治社会のしくみと、そこにおける
自分の役割の重要性を気付かせることができる。

(4) 「2.6 ICTを用いた学習環境」

- ・語学、一般教養と連携してアカデミックスキルの向上を図ることが必要。
- ・ファシリテーターの制度化が必要。
- ・教員同士の連携を図るためのコミュニケーションシステムが必要。
などと、意見があり、最終的に下記のとおりまとめた。

2.6 授業に ICT を用いた学習環境

- ① 現実社会の問題に即応した問題解決となるよう教育クラウドと連結し得るモバイ
ルメディアのシステムが必要となる。
- ② 多言語リテラシーとプレゼンテーションスキルについて、全学的な規模での e
ラーニングの導入が必要となる。
- ③ 学習及びシミュレーションを支援する上級学年、大学院生によるファシリテー
ターの制度化が必要になる。
- ④ 教員同士の連携を図るためのコミュニケーションシステムが必要になる。

(5) 「3. 授業運営上の問題及び課題」

- ・メディアと連携したインターカレッジな競い合いの場を設けるためには組織的な支援が必要であることを追記した。

最終的に下記のとおりまとめた。

4. 授業運営上の問題及び課題

- ① 上級学年、大学院生による学習支援を図るためのファシリテーターを大学ガバナンスとして、構築しておく必要がある。
- ② グループによる協働学習を基本にしてバーチャルなグループでの4年間の学びを通じて発展的な学習ができるようにするため、他教科の教員と連携したeラーニング等による振り返り学習の仕組みづくりが必要である。
- ③ メディアと連携したインターカレッジな競い合いの場を設定するために、国内外の社会や大学との連携体制を大学ガバナンスとして拡充していく必要がある。

以上、委員が作成した修正（案）をもとに改訂を行い、政治学委員会としての完成をみた。

3. 今後の予定

本日作成した教育改善モデルについて、各委員が1週間程度で見直しを行い、サイバーFD研究員にアンケートをとる。期間は2週間程度とし、次回はその集計結果を踏まえて検討する。

V. 次回の開催日程

日時：平成24年2月20日以降（メーリングリストにて調整）

場所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室